

ROTARY CLUB OF OMIYA WEST



2023-24 年度 大宮西ロータリークラブ 週報



世界に希望を生み出そう



創 立:1963年 3月 22日

例会場:パレスホテル大宮

例会日:月曜日12:30~13:30

会 長 藤嶋 剛史

幹 事 横溝 一樹

クラブ会報委員会 竹ノ谷純宏

第2820例会 2024/05/20

発行日 2024/05/27

会長挨拶



会長 藤嶋 剛史

私の娘は大学生で、空手部に所属しています。小学校のとき空手を習い、その後私立の中高一貫校に入って通学が大変でやめたのですが、大学で再開しました。その空手を習ったのも、私立の学校へ行ったのも理由があります。

私の家はさいたま市でも辺鄙なところにあるのですが、そういう場所は治安に問題があったり学校が荒れがちで、護身のためや、地元の学校に行きたくないという本人の希望でそうになりました。

過去、近所の土地が売りに出されるたびに色々な人たちが越してきましたが、その中に小さなお兄ちゃんと妹がいる4人家族がいました。幸せそうに暮らしていたのですが、ある日お母さんがいなくなり、しばらくして新しい奥さんがやってきました、それからよく兄妹の泣き声が聞こえるようになり、寒い夜外に立たされていたり、荷台に乗せてもらえず自転車の後を走らされたりしていました。ある日私の妻が、近くのコンビニでお兄ちゃんが万引きするのを見たといいました。その後様子をうかがっていると、店を離れた場所で妹にお菓子を食べさせていたそうです。それから妻は、後妻の人に見つからないように兄妹によくお菓子を食べさせていましたが、その子たちは結局祖父母に引き取られていきました。この時は大きなケガなどの事態にはなりませんでした。虐待の末に子どもが亡くなるケースもあり、実の親に殺されることもあります。子どもは本能的に、親というのは最後まで自分の味方だと思っているのではないのでしょうか。その親に殺される子どもは、死の間際にどれほどの絶望を味わうのでしょうか。それほど非道なことであるにもかかわらず、児童虐待の刑は軽いように感じることもあります。日本は儒教の影響で、尊属・卑属の考え方があり、以前は親を殺す「尊属殺人」は死刑または無期

懲役のみという、極めて重い刑とされていました。しかし、それが変わるきっかけとなった事件があります。中学生のときから実の父親に性的暴行を受け続け、5人の子を産まれ、夫婦同然の生活を強いられていた女性が、ようやく相思相愛の男性が現れ結婚しようとしたところ、監禁・暴行を受け、ついに父親を殺してしまったという事件です。しかし、親子二代にわたる弁護士の努力により、この事件への尊属殺人罪の適用は憲法違反と認められ、その後も適用されなくなり、ついになくなりました。女性の家は貧しく、弁護報酬はカバン一杯のじゃがいもだけだったそうですが、それでも女性を実刑にしないよう努力した理由は、あまりにも可哀想だったからだと言います。12月の例会でお呼びした聖路加国際病院小児科医の小澤先生が「この国の政治はもっと子どもの方を向いて欲しい」と言っていました。が、児童虐待に関しても、児童相談所の人員不足など国として改善すべき点はいくらでもあるように思うのですが、その実現にはきっと時間がかかるだろうと思います。しかしそんな中でも、この国の未来そのものである子どもたちを、皆で守り、皆で育ていくために、いま我々にもできることはないだろうか？ そんなことを学び、考える。今日の例会がそんな契機になることを願います。

ロータリーの目的・四つのテスト

【本日のリーダー】

風岡 淳一 会員



お客様紹介、米山記念奨学生紹介

- 認定 NPO 法人 児童虐待防止全国ネットワーク 理事長 吉田 恒雄様
- カンボジアたくみ日本語学校 校長 今井 巧様
CEO Hor Vatey (ホール ヴッタイ) 様
- 国際ロータリー第 2770 地区第 3 G パストガバナ 補佐/次年度地区社会奉仕部門委員長 吉田 耕之様 (大宮シティ RC)

把手共行 ~分かち合おう、共にロータリーの感動を~

事務局:さいたま市大宮区桜木町1-11-2 YK-12ビル 4階

TEL 048-871-8881 FAX 048-871-8882

E-mail: west@rc-omiya-west.com HP: http://rc-omiya-west.com/



- 入会者/住友三井オートサービス株式会社
さいたま支店 支店長 武藤 進様
■2024 学年度米山記念奨学生 金 亮希さん
(ご紹介:副会長 染谷 義一)

幹事報告

幹事 横溝 一樹

1. 次年度のロータリー手帳が届いております。今回は希望される方にお渡しするという形となりますので、必要な方は会場受付にてお持ちください。
2. 都合により6月17日の例会は大宮ソニックシティ市民ホールで行います。
3. 本日17時より1階パルテールにて次年度理事役員予定者会議が開催されます。対象の皆様はよろしくをお願いいたします。



お客様ご挨拶

- 地区 国際交流委員会 松本 有祐
以前、当クラブで不要となったプロジェクターを寄贈しました。
2023年8月にはスピーチコンテストを支援、入賞者には日本に来ていただきました。



大宮西RCから実施した、たくみ日本語学校への支援



プロジェクト贈呈
大宮西RCでプロジェクターを買い替える際、元のプロジェクターを授業で役立てていただくべく提供しました。



スピーチコンテスト
賞品贈呈 (50000円分)
スピーチコンテストの入賞者の商品として、日本旅行の一部を負担しました。



入賞者と
日本での交流
スピーチコンテストの入賞者が日本に来た際の懇親会を実施しました。

■カンボジアたくみ日本語学校

校長 今井 巧様

「カンボジアで、2015年より日本語学校を、2019年より現地の学校を運営しています。環境に関わらず学べる場を提供したいとの思いで、無料で参加できるようにしています」



■CEO Hor Vatey

(ホールワッタイ)様

「プロジェクターをいただき、ありがとうございました」



- 国際ロータリー第2770地区
第3グループ パストガバナー補佐/
次年度地区社会奉仕部門委員長
吉田 耕之様 (大宮シティRC)
藤嶋会長の友人としてうかがいました。横溝幹事とも仕事でお会いしてご挨拶しました。



入会式

- 入会者 /
住友三井オートサービス株式会社
さいたま支店 支店長 武藤 進様
●紹介者/川崎 春夫 会員



川崎 春夫会員よりご紹介

「山本 明彦会員の後任として入会されました。入間市在住、趣味はスポーツ観戦とゴルフだそうです」

武藤 進様ご挨拶

「春日部市で生まれ育ちました。地域貢献できるようがんばります」



委員長報告、派遣役員報告

■親睦委員会 委員長 川井 理砂子

最終例会のお知らせをボックス投函しました。タヒチアンダンスの方をお呼びします。また、部門対抗のど自慢大会の開催も考えています。皆様のご参加をよろしくお願いいたします。



■ゴルフ部会 幹事 小林 政良

7/9 (火) 日高カントリークラブでコンペを開催します。食事は料金別、カートはなし。6/3 (月) までにご返信をお願いします。多くのかたのご参加をお待ちしています。

出席報告

■出席委員会 委員長

新城 盛幸



スマイル報告

■副S A A

胡 平



卓 話

■認定 NPO 法人

児童虐待防止全国ネットワーク
理事長 吉田 恒雄 様

こども虐待の防止
～私たちにできること～

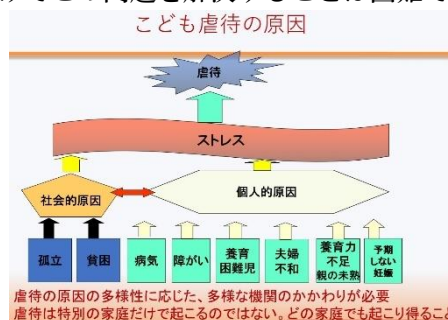
こども虐待は、現在、わが国が緊急に解決すべき重大な社会問題です。全国の児童相談所が対応したこども虐待の件数は、2022年には、21万件を超え、



虐待により死亡したこどもは近年では毎年 70 人を超えています。



こども虐待は、貧困や孤立、子育て困難などさまざまな原因により生じることになります。国や自治体は、法律や条例の制定・改正、児童相談所職員の増員、児童福祉施設の拡充、医療・保健、警察等との連携強化を図っています。しかし、行政や専門家の働きだけでこの問題を解決することは困難です。



虐待をした親を責めるだけでなく、そもそも虐待が起きないように「予防」することが大事です。それには、こどもと子育てを支える環境作りが必要であり、市区町村や地域社会が重要な役割を果たします。それとともに、地域で生活する人々による「子どもと子育てにやさしい見守りと支援」が、子育てに悩みをかかえる親にとって救いとなり、子どもの健やかな成長につながります。こうしてこども虐待の予防が図られる、と私たちは考えています。

私たち一人ひとりができること 1

—こども虐待防止の啓発—

- ・こども虐待のない社会の実現をめざして！こども虐待防止の啓発活動（オレンジリボン運動）の理念
- ・こども虐待についての広報＝正確な理解
- ・「虐待かな？」思ったときの通告189の推進



私たち一人ひとりができること 2

オレンジリボン運動＝こども虐待防止 (orange ribbon から)

- ・個人の方にできること = こども虐待予防の啓発
 - ・オレンジリボンサポーターになる。
 - ・こども虐待を正しく知る。
 - ・購入したグッズを活用して啓発を行う。
 - ・オレンジリボンを着ける
 - ⇒話のきっかけ作り＝理解者拡大の啓発効果
 - ・SNS（フォロワーの拡大等）でオレンジリボン運動を支援する。
 - ・寄付で支援する。
- 「こどもと子育てにやさしい社会の実現」による、「こども虐待のない社会の実現」の機運を高める。

たとえば、子育て中の親にやさしい言葉やねぎらいの言葉を掛け、こどもをほめたりすることや、駅の階段で子どもを抱えて困っている親のベビーカーを運ぶのを手伝うなど、専門知識や法的権限がなくても、地域の人たちの善意に根差した「ちょっとした言葉かけやお手伝い」が、育児に疲れ困っている親の負担感を減らし、これが虐待の予防につながるのではないのでしょうか？

企業や団体においては、その業態や特性に応じて、

地域の子育てイベントへの協力、寄付をすることによって、こどもと子育て支援の役割を果たすことができます。さらに社章代わりにオレンジリボンバッヂを付けることで、企業活動を通じてこども虐待の啓発につなげることもできますし、ホームページにオレンジリボンのバナーを貼ることも効果的な防止活動です。

このような企業も巻き込んだ、地域の人々と行政が一体になったこども子育て支援は、一長くて遠い道のりですが、最終的にはこども虐待のない社会につながる道であると思います。これからも皆様とこども虐待のない社会の実現に向けて、一人ひとりができることをして、こども虐待防止の活動をしていきたいと思っております。

私たち児童虐待防止全国ネットワークは、オレンジリボン運動を通じて「こどもと子育てにやさしい社会がこども虐待のない社会につながる」をキャッチフレーズに、これからも活動を続けていきます。どうぞ皆様方の御協力と御支援をよろしくお願い申し上げます。

